

私立 大阪城南女子短期大学

プログラムの名称

女子学生のための地域活動力育成プログラム
——ミニコミ誌の取材・編集をととしたコミュニケーション教育

プログラム担当者

人間福祉学科 教授 小林 孔

キーワード

1. 地域活動力 2. 城南エリア 3. ミニコミ誌
4. 女性の視点 5. カリキュラム編成

1. 大学の概要

大阪城南女子短期大学は、1935(昭和10)年、城南女子商業専修学校として設立以来、「自主自律」「清和気品」を建学の精神に、職業人としての女子学生の育成に努めてきた。1965(昭和40)年に国文科・家政科の2学科をもって大阪城南女子短期大学が設立され、1970(昭和45)年幼児教育科の設置以降、3学科の体制で短大としての基盤を固めてきた。また、これに併せて、幼児教育科に1989(平成元)年専攻科福祉専攻を設け、2000(平成12)年には、人間福祉学科が開設され、「教育の城南」「福祉の城南」をスローガンに、質の高い対人援助職の育成を目指してきた。なお、現在は、総合保育学科、人間福祉学科、現代生活学科の3学科に再編成され、各科のカリキュラムに、専門科目と連動する基礎共通科目として、「現代の礼法」「日本語コミュニケーション」(卒業必修科目)をおき、礼節を持ち、コミュニケーション能力を備えた対人援助職を専門とする女子学生を育てている。

2. 本プログラムの概要

コミュニケーション能力、問題解決力、プレゼンテーション能力の育成は、学生支援に欠かせない教育現場での今日的課題である。本学では、この課題に対して、独自に分析した地域「城南エリア」を用い、ここを取材源とする学生主体のミニコミ誌「大阪ほっとコミ」(B5版20頁2色刷)を発信する(写真1参照)。

そのミニコミ誌の取材・編集・発行のために、全学に基礎科目として「大阪の人と文化I・II」を設置し、1年次では他の科目と連動させ、学生への動機づけと模擬演習を行い、2年次で女性の視点による実際の取材と編集を行う段階的なカリキュラム編成をした。なお、カリキュラムの運営及びミニコミ誌の編集に関しては、学内に学生支援委員会をおき、各学科の学生支援と全体調整の窓口とする。



写真1 大阪ほっとコミ準備号

地域に愛着と理解を持ち、自分のことばと視点で取材し、情報を発信できる地域活動力を、2年間を通して創り出す対人援助職育成の取組であり、大阪の文化に根ざした教育プロジェクトでもある。

3. 本プログラムの趣旨・目的

地域における人間関係の回復は、今日の大きな社会的ニーズである。このような社会的ニーズを踏まえ、本学では、学生の品格を高め、礼節をわきまえた女性の育成を継続し、その到達目標を、コミュニケーション能力、問題解決力、プレゼンテーション能力を備えた学生像においている。

現在の学生は、基礎学力(読み書き、計算)、問題解決能力、他人の痛みへの共感性の不足が見られ、友人ができない、他者とのコミュニケーションが図れない、協調性がない、などの傾向が現れている。そこで、地域文化を吸収し、地域の情報を取り集め、地域に密着した人的ネットワークを構築する方法を学ばせ、人間性を獲得するためのプロジェクトを考案した。

本取組の特色は、地域と学生の課題を踏まえ、ミニコミ誌「大阪ほっとコミ」の取材・編集・発行を通じ

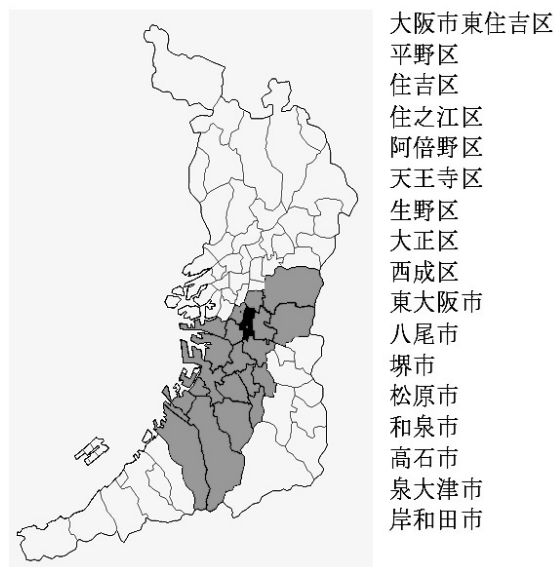


図1 城南エリア

て、地域とのコミュニケーション^{たがひ}を耕し、血の通った地域活動力を回復させ、ともに感じる力を支援する点にある。

取組に当たり、まず、「城南エリア」を設定した。「城南エリア」とは、大阪城南女子短期大学が立地する大阪市東住吉区、及びその周辺市区（大阪府中南部）のことで、学生が「大阪ほっとコミ」の取材に出かける対象地域である。

「城南エリア」は、大阪城南女子短期大学の社会的ネットワークである実習施設、指定校、就職先が集中するコミュニティでもある。「城南エリア」での在校生の割合（平成17年・18年・19年の3ヵ年データ）は、2008（平成20）年現在での学生総数の約5割に当たり、本学に密着した地域であると言えよう（図1参照）。

そこで、この「城南エリア」に着目し、ここを取材源とした学生主体のミニコミ誌「大阪ほっとコミ」を発信する。そのミニコミ誌の取材・編集・発行のために、全学科に「大阪の人と文化Ⅰ・Ⅱ」を設置する。まず、1年次で、学生への動機づけと模擬演習を行ったのち、2年次では、各自のテーマに従って、実際に取材し、記事を編集するカリキュラムを設定した（次頁、本プログラムの有効性、表1、表2参照）。

この新しい取組の意義は、「城南エリア」で、人的なネットワークを構築し、地域を育て、自らを高めていく、活動力のある女子学生を育成することにある。

4. 本プログラムの独自性(工夫されている内容)

「大阪ほっとコミ」は、「城南エリア」での人との

つながり、地域性のある話題、地域文化に焦点を当てて誌面づくりをするものであり、その基本コンセプトは、「女性の視点で取材する」ものである。学生が主体的に取材・編集・発行に関わり、その内容の反響をじかに調査する目的で、学生が率先してミニコミ誌の配布を行い、地域との双方向のコミュニケーションを図ることを特徴としている。この実践の継続によって、「城南エリア」での学生の地域活動力の向上をねらいとしている。

なお、「大阪ほっとコミ」は、2008（平成20）年から年2回発行し（準備号を含む）、発行部数は、学生による草の根的な配布と、「城南エリア」の規模を勘案して10,000部とする。2010（平成22）年度以降も継続していく予定である。

本プログラムは、大学側から地域の社会的ニーズに目を向けて、積極的に交流を図ろうとする点にも特徴がある。特に、大阪の生活文化は、主婦をはじめとした女性が担ってきた文化（軒先の文化）の影響が大きい。そのような特色を踏まえながら、コミュニケーションの再生を図ることは、学生が地域の文化を掘り起こし、結果、学生が地域に育てられる教育の場の提供としても意義があろう。

誌面づくりには学生の取材による連載記事をはじめ、一話完結のコラム記事、学生以外の投稿など、流動的な編集スペースを多く盛り込み、学生の興味や学習効果を最大限に引き出させる工夫を用意してみたい。何よりも、学生の興味・関心がこのプログラム成功の鍵となるからであり、学生の能力育成の仕掛けを準備するためでもある。

このような地域の文化特性に根ざしたミニコミ誌の継続的な発行は、他大学でも実践可能なもので、互いにそのような情報発信を参考にして、ミニコミ誌の質の向上が図られるのではないかと期待される。

5. 本プログラムの有効性(効果)

ミニコミ誌の作成を通じて、女性としての視点を更に磨き、事実を把握し、正確に表現できるための読み書きの力（リテラシー）、人と向き合おうとするコミュニケーション能力、責任を持って問題を遂行する力と問題解決力、自分の意見を伝えるプレゼンテーション能力を高めていく効果が期待される。その結果として、情報と文化の共有が、地域との双方向の活性化を生み、本プログラムが目指す学生の地域活動力の育成効果が見込まれる。

今回の新たな取組では、既存の「現代の礼法」「日本語コミュニケーション」に加え、「大阪の人と文化Ⅰ・Ⅱ」を基礎科目に、「大阪の人と文化Ⅲ」を学科選択科目に設置するカリキュラムを編成した（表1、表2参照）。

このカリキュラムに沿って「大阪ほっとコミ」の発行、配布、反響調査などを行い、血の通った地域との交流を図り、コミュニケーションの再生を促すことが目的である。学生には、カリキュラムの履修とミニコミ誌の一連の制作過程を通して、各自が身に付けた地域活動力を目に見える形で実感させるわけである。地域の人々への尊敬の気持ちや礼節を持ち、本学の従来取組との相乗効果による、重層的な支援を心がけていきたい。

表1 2009(平成21)年度 カリキュラム表

区分	科目名	担当者	授業方法	単位数	1年次		2年次	
					前期	後期	前期	後期
基礎 共通 科目	現代の礼法A	山口雅子他	演習	1		○		
	現代の礼法B	山口雅子他	演習	1			○	
	英語コミュニケーションA	秦康宏	演習	1			○	
	英語コミュニケーションB	秦康宏	演習	1				○
	情報処理演習A	西尾明修	演習	1			○	
	情報処理演習B	西尾明修	演習	1				○
	日本語コミュニケーションA	小林孔	演習	1	○			
	日本語コミュニケーションB	小林孔	演習	1		○		
	日本国憲法	吉川壽一	講義	2	○			
	体育	高橋篤志	演習	2	○	○		
ことばと表現	小林孔	演習	1				○	
大阪の人と文化Ⅰ	前田崇博他	講義	2	○				
大阪の人と文化Ⅱ	小林孔他	演習	1		○			

「大阪の人と文化Ⅲ」は各科の学科科目中に設定

表2 大阪の人と文化Ⅰ・Ⅱ シラバス

大阪の人と文化Ⅰ
 学科共通科目 1年次前期 2単位（講義）
 《授業概要》
 本授業は、大阪の人と文化をさまざまな角度から扱うテーマ完結型のリレー講義方式で行う。地元地域についての理解、および自らの関心を深め、「大阪の人と文化Ⅱ」へとつなげていく動機づけの科目である。身近な地域に関心をもち、その特性や文化を知ることが、女性職業人（とくに対人援助職）にとって不可欠な素

養である。

《授業計画》

1. 授業オリエンテーション（本授業の意義と目的、進め方）
2. 大阪人とスピード
3. 大阪人の笑い
4. 大阪人の生活術（節約・買い物）
5. 大阪の商店街・路地裏と暮らし
6. 大阪のおかんの味
7. 大阪の女性と服飾
8. 大阪の地域福祉の発展
9. 大阪のボランティア活動
10. 大阪の子どもと遊び
11. 地元地域の歴史（城南エリアからの外部講師）
12. 浪花の芸能（城南エリアからの外部講師）
13. 意外な大阪（城南エリアからの外部講師）
14. 地域ミニコミ誌から見えてくる今日的課題
15. まとめ講義、課題レポートのテーマ選定

《評価》

- ・各回のリレー講義に関して100字程度の意見文の提出（30%）。
 - ・関心をもった2テーマについて論述した（1テーマにつき1200字程度）試験に該当するレポート提出（50%）。
- 上記の提出物と出席状況（20%）とによる総合評価

大阪の人と文化Ⅱ

学科共通科目 1年次後期 1単位（演習）

《授業概要》

身近な地域を具体的に知る取材の方法と、地域情報を有効利用できるように、主体的に問題を発見し、情報を発信する力、協同で取り組む力、自らの考えを効果的に伝えるプレゼンテーション力を演習によって育成する。授業内容は、模擬的なミニコミ誌の企画・取材・編集の段階的な組み立てとする。全体説明以外は、グループワーク（1グループ15名程度）となるため、教員は少人数担当制をとる。

《授業計画》

1. 授業オリエンテーション
 （本授業の目的、進め方、「大阪ほっとコミ」作成の意義）
2. 「大阪ほっとコミ」の規定と企画書の書き方、グループ編成：全体説明
3. 企画書の立案、グループ内役割分担

(1グループ3記事担当)

4. 企画書の立案
5. 企画書についての発表(教員コメント)
6. 取材先との連絡調整の方法、取材スケジュール、取材の仕方:全体説明
7. 取材の実施(ロールプレイ)①
8. 取材の実施(ロールプレイ)②
9. 取材記事のまとめ、文章構成:全体説明
10. 取材記事作成・指導
11. 各取材記事の編集会議①
12. 各取材記事の編集会議②
13. 誌面の作成①
14. 誌面の作成②
15. 誌面についての発表および講評

《評 価》

- ・企画書および取材報告書(30%)。
- ・演習を通して自らが果たした役割と学びについてのレポート(1,200字程度)提出(40%)。
- ・上記提出物とグループワークへの参加度(30%)による総合評価

「大阪ほっとコミ」の編集に際して、「城南エリア」での取材の対象を自分で絞り込むためには、地域及び住民とのコミュニケーション力が不可欠の要素となる。現代の学生ニーズである自分で考える力、社会人としての基礎能力の育成に対応するものとなろう。

なお、今回の新たな取組は、本学既存の教育で取り組まれている課題研究・卒業研究・生活ゼミでの指導内容と学外実習、教員の研究活動とも深く関連している(図2参照)。

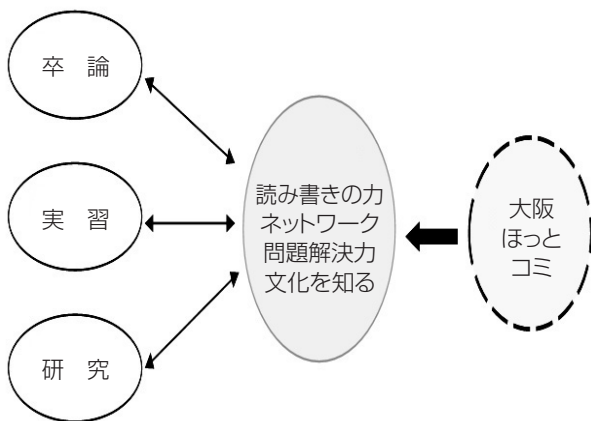


図2 新しい取組と教育活動・研究活動の関連

6. 本プログラムの改善・評価

この取組での目標は、「城南エリア」で地域活動力を発揮できる女性職業人の輩出に他ならない。そのためには、学生がこの取組を通じて、他者と共感のできるコミュニケーション能力、問題解決力、適切なプレゼンテーション能力を獲得していくことが求められるであろう。その上で、果たすべき責任や役割の達成感や、大阪の文化への深い造詣を身につけ、女性の視点を生かした地域への活動力が評価の対象になる。むしろ、ミニコミ誌の部数の拡大や反響は重要なファクターであるが、そのみならず、学生自身の客観的な評価が肝要である。具体的には取組の終了時に学生に対し、学生支援委員会(教育改革プログラム取組プロジェクト)が、これらの項目についての量的な効果測定調査を実施し、その変数によって本プログラムの到達度を評価する。これまで行ってきた学生による「授業評価アンケート」及び卒業時「満足度調査アンケート」も、継続的に活用していきたい。これは、本取組の学生からの評価でもある。

なお、「城南エリア」での2008(平成20)年現在の総人口は、およそ310万人で、そのうち有効読者数を200万人と推計し、発行部数を10,000部とした。これをベースに、将来的には発行部数の拡大及び「城南エリア」の拡大をもって効果測定の判断材料としたい。

下図(図3)のとおり、新しい取組には、発刊、学生による草の根配布、大学祭でのポスターセッション、反響調査、カリキュラムの中での分析、その結果を次号の内容に反映させる評価の循環サイクルがある。ここで言うカリキュラムの分析とは、「大阪の人と文化 I・II・III」のシラバスの見直しを意味し、シラバス及び評価内容は情報公開としてインターネットで発信

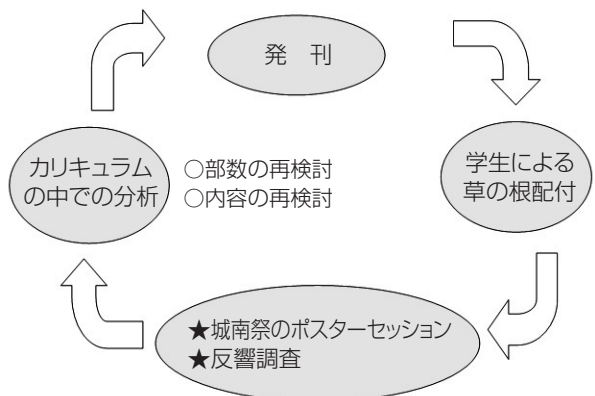


図3 新しい取組における評価の循環サイクル

していく。

7. 本プログラムの実現可能性・将来性

これまで、本学では、各科共通の基礎科目「日本語コミュニケーション」「情報処理演習」「現代の礼法」において、コミュニケーション能力や基礎的な情報処理の演習、また女性職業人としての素養の育成に全学を上げて取り組んできた。また、各科ゼミ（課題研究・卒業研究・生活ゼミ）においても、これまでに各学生のテーマに基づいて研究指導を行い、特に2008（平成20）年度から準備段階として、「大阪ほっとコミ」の具体的な取材・編集・発行を指導する。第1号は2009（平成21）年3月に発行の予定である。

2009（平成21）年度から、基礎科目に「大阪の人と文化Ⅰ・Ⅱ」をおく。「大阪の人と文化Ⅰ」は、身近な地域に関心を持ち、地域の特性や文化を知るために、大阪の人と文化を様々な角度から扱うテーマ完結型のリレー講義方式を採用し、具体的なテーマとしては「大阪人の生活術」や「大阪のおかんの味」、「浪花の芸能」などをあげている。「大阪の人と文化Ⅱ」は、ミニコミ誌発行に必要な取材のための知識、編集のための方法を模擬演習する科目として位置付けている（前掲表2：シラバス参照）。

「大阪ほっとコミ」の作成は、2009（平成21）年度の段階では各科ゼミで指導し、2009（平成21）年9月に第2号（人間福祉学科・総合保育学科担当）を、2010（平成22）年3月に第3号（総合保育学科・現代生活学科担当）を発行予定である。本年度から、第2号を学生自身の手渡しによる地域配布活動を本格的に行い、また、城南祭（大学祭）においてのポスター発表も新たに取り入れ、その反響を第3号の誌面に反映させる。

2010（平成22）年度では、2年次でいよいよ各科ゼミでの指導体制を統合し、学生に地域活動力を育成するための一貫性を目的に「大阪の人と文化Ⅲ」を学科科目として新設する（シラバス掲載は省略）。このことにより、本プログラムは完成年度を迎え、その中で「大阪ほっとコミ」の具体的な取材・編集・発行が行われ、2010（平成22）年9月に第4号を、2011（平成23）年3月に第5号を発行する。

カリキュラムの「大阪の人と文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は本学の専任教員が担当し、その担当者は学長をリーダーとする学生支援委員会のメンバーが当たり、本取組の管理、運営も同時に行う。また、学生の効果測定の実施も本委員会で行うものとする。

実施体制の整備期間に関しては、表3・表4の運用計画どおり、各科のゼミを中心として編集、評価に当たることになるが、この完成年度を迎えるまでの過渡的期間に、教員の資質と学生の取組意欲の向上を、いかに図るかが課題である。将来的には、他大学のミニコミ誌発行機関との学生間交流や、教員へのスキルアップ研修を計画しなければならない。その上で、「城南エリア」内にある取材先との連携、継続のための努力も本プログラムの成功に必要な不可欠になるであろう。東住吉区とは公開講座をはじめ、教学上の提携がすでに行われているが、他の行政区にも本プログラムの趣旨を理解してもらえよう、本学が主催する取材協力の説明会開催を検討したい。

2010（平成22）年度に本プロジェクトは完結することになるが、その初期始動段階に、この度の補助金申請

表3 年次別計画表 2009年度（平成21年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学生支援委員会	◎	◎	◎	◎	◎	◎	大学	◎	◎	◎	◎	◎
大阪の人と文化Ⅰ	← 1年 →						大学祭					
大阪の人と文化Ⅱ									← 1年 →			
課題研究（人間福祉学科）	← 2年 →											
卒業研究（総合保育学科）	← 2年 →								← 2年 →			
生活ゴミ（現代生活学科）									← 2年 →			
大阪ほっとコミ	反響調査取材		編集	校正		2号	取材	反響	執筆	編集	校正	3号

表4 年次別計画表 2010年度（平成22年度）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
学生支援委員会	◎	◎	◎	◎	◎	◎	大学	◎	◎	◎	◎	◎
大阪の人と文化Ⅰ	← 1年 →						大学祭					
大阪の人と文化Ⅱ									← 1年 →			
大阪の人と文化Ⅲ	← 2年 →								← 2年 →			
大阪ほっとコミ	反響調査取材		編集	校正		4号	取材	反響	執筆	編集	校正	5号

を行った理由は、あくまで本プログラムをスムーズにスタートさせるためのものである。補助期間終了後も本学独自に事業と評価の方針を恒久的に維持したい。

このプログラムの継続によって、ミニコミ誌を介した「人づくり」「地域づくり」が、本学の知財となって残されていくことを期待する。本取組が、他の教育機関にも波及する汎用性を持ち、地域の特徴に応じた活性化に貢献する人材育成に繋がっていくものと思われる。

なお、次の表のように、このプロジェクトは、2009

表5 新たな取組全体に係る申請額

年 度	2008(平成20)	2009(平成21)	合計
申請額(千円)	2,622	1,850	4,472

(平成21)年度以降、年間1,850千円の運営費で継続されていく予定である。この予算額は、本学における一部署の委員会予算を超えるものではなく、その意味においても、身の丈にあった継続性・実現性のある企画であると考えている。

選 定 理 由

大阪城南女子短期大学においては、現代の学生の気質を分析した上で、学生支援に必要な内容を明確に設定し、具体的かつ組織的に支援活動を実施しています。その成果は、「現代の礼法」、「日本語コミュニケーション」などの科目設定とそれを学んだ学生が職場で高い評価を受けるといった点などに現れています。

今回申請のあった「女子学生のための地域活動力育成プログラム」は、貴学周辺の地域「城南エリア」を取材対象としたミニコミ誌「大阪ほっとコミ」の編集・発行を通じた取組で、学生にとって身近に感じられるものであり、日常活動を通してコミュニケーション力や人間関係力、さらには問題解決力を育む工夫されたおもしろい取組であると言えます。

特に、この取組が「大阪の人と文化Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などの授業科目と結びついて、地域文化の継承・発展をも目論んでいる点は地域性を発揮したもので、他の大学等の参考となる優れた点であると言えます。